

Tb7

25
MARCH
2011

Distribution survey report of the Tonami city vol.7

砺波市遺跡詳細分布調査報告 7
〈報告編〉 — 梅檀野・梅檀山 —

2011年3月

富山県 砧波市教育委員会

序

砺波市は、富山県西部の砺波平野のほぼ中央部、大部分が庄川により形成された扇状地上に位置しています。将来の都市像を「庄川と散居に広がる健康フラー都市」とし、まちづくりの基本理念を「花香り、水清く、風さわやかなまち 砧波」と定め、文化遺産である散村の保護・活用を図るとともに花・水・風をキーワードに自然との調和をもとめ、住民が安心して暮らせる住みよい都市をめざしています。

砺波市では、これまでに旧砺波市域全体を対象とした遺跡詳細分布調査は実施されておらず、平野部の大半が遺跡の希薄な地帯という印象を与えます。これまで偶発的な発見や地域的に特定種別の遺跡の表面調査はなされてきましたが、少ない情報をもとに地域の歴史的環境を語ることはできません。

また、砺波市は近年人口増加とともに開発行為が頻発しており、埋蔵文化財保護の必要性が日々強くなっています。現状のままでは埋蔵文化財行政を運営する上で弊害となりかねません。

旧庄川町では、すでに平成14年度から2カ年をかけて町内遺跡詳細分布調査が実施され、報告書が刊行されています。

そこで、国庫補助事業として7カ年計画で旧砺波市全域を対象とした遺跡詳細分布調査を実施する運びとなりました。

本分布調査の成果をまとめた本書が砺波市の地域史研究ならびに埋蔵文化財保護体制確立の一助となることを願ってやみません。

おわりに、調査の実施および報告書刊行にあたり、梅檀野・梅檀山地区各自治振興会および砺波市土地改良区、富山県埋蔵文化財センターをはじめ関係各位に多大なるご援助・ご協力をいただきました。衷心より感謝申し上げます。

平成23年3月

砺波市教育委員会
教育長 館 俊博

例　　言

1. 本書は、砺波市教育委員会が国庫補助及び県費補助を受けて 7 カ年計画で実施している市内遺跡詳細分布調査事業の 7 年目（2010 年度）の分布調査報告である。この報告は「報告編」と「遺跡地図編」の 2 編からなる。
2. 調査は、砺波市教育委員会が主体となり実施した。
3. 今年度調査は、砺波市梅檀野地区及び梅檀山地区を対象とした。調査期間は次のとおりである。

〔現地調査〕 平成 22 年（2010）11 月 16 日～平成 22 年 12 月 10 日

〔整理作業〕 平成 22 年（2010）12 月 8 日～平成 23（2011）年 3 月 25 日

4. 調査事務局は、砺波市教育委員会 生涯学習課に置き、学芸員（主任）野原大輔が調査事務を担当し、事務局長白江秋広が総括した。

調査事務局 砧波市教育委員会 事務局長 白江 秋広

生涯学習課 課長 小西 清之

同 文化芸術係長 平木 宏和

調査担当者 同 学芸員（主任）野原 大輔

5. 現地踏査にあたって、梅檀野地区及び梅檀山地区の各自治振興会に多大なご協力・ご理解を得た。記して謝意を表したい。
6. 調査期間中、梅檀山在住の古井節雄氏から申し出があり、孫子ワバラ遺跡で採集された貴重な石器を砺波市に寄贈していただいた。記して謝意を表したい。
7. 現地調査及び整理作業は、日本海航測株式会社（現場代理人：菟原雄大）に委託して実施した。
8. 資料の整理、本書の編集・執筆は、調査担当者が行なった。また、遺物整理・図面作成には、千田友子・幡谷宏美（生涯学習課）が参加した。
9. 採集遺物および記録資料は、砺波市教育委員会が保管している。

目 次

序 文 例 言 目 次

第 1 章 調査の沿革	1
1 地理的環境と遺跡の分布	1
2 調査に至る経緯	4
3 分布調査の計画	4
4 分布調査の方法	5
第 2 章 調査の成果	9
1 平成22年度調査区の概要	9
2 採集遺物	11
3 遺跡各説	18
増山西遺跡	
東別所跡が城遺跡	
五谷遺跡	
第 3 章 まとめ	19
 【参考文献】	

表 目 次

- Tab.1 遺跡数の推移
- Tab.2 分布調査の年次計画
- Tab.3 採集遺物観察表
- Tab.4 中世石造物一覧
- Tab.5 採集遺物一覧（1）
- Tab.6 採集遺物一覧（2）
- Tab.7 調査遺跡一覧

図版目次

- Fig.1 砥波平野の地形分類図
- Fig.2 埋蔵文化財包蔵地と地形分類図
- Fig.3 环状耳飾
- Fig.4 踏査経路模式図
- Fig.5 砥波市分布調査範囲図
- Fig.6 調査区周辺の旧版地図
- Fig.7 採集遺物の時期別点数
- Fig.8 遺物実測図（1）
- Fig.9 遺物実測図（2）
- Fig.10 埋蔵文化財包蔵地と遺物採集地点（2010年度）

写真図版目次

- PL.1 空中写真（1）
- PL.2 空中写真（2）
- PL.3 空中写真（3）
- PL.4 調査写真（1）
- PL.5 調査写真（2）
- PL.6 調査写真（3）
- PL.7 遺物写真（1）
- PL.8 遺物写真（2）
- PL.9 遺物写真（3）
- PL.10 遺物写真（4）

第1章 調査の沿革

1 地理的環境と遺跡の分布

庄川扇状地 研波市は大部分が東部を北流する庄川により形成された扇状地であり、東に旧扇状地右扇の芹谷野段丘、そして射水丘陵から連なる東別所新山山地を控える。庄川扇状地は県内の三大扇状地に数えられ、そのなかでも最大の規模を誇り、面積は 146 km² に及ぶ。庄川扇状地には、地理学上著名的な散村 (Dispersed Settlement) が広がっており、長闊な田園空間を形成している。

庄川はかつて幾度となく河川変遷を繰り返し、近世に至り現河道に落ちていた経緯がある。天正 13 年 (1585) の大地震によって、庄川町雄神橋付近の弁財天社辺りで千保川・中田川に分流された。現在の庄川が主流になるのは、近世初頭の承応年間 (1652 ~ 1655) 頃の柳瀬普請、続く寛文 10 年 (1670) にはじまる上流の松川除築堤工事を経てのことである。

氾濫原であった平野部は、旧河道が幾条も通り、地形の小起伏が多い。そのため遺跡の希薄な地帯として知られ、遺跡全体の 30% に過ぎない。縄文遺跡の分布は、扇頂部に中期中葉の拠点集落・松原遺跡があるが、段丘裾の東保石坂遺跡、徳万遺跡、扇央部の久泉遺跡などが散在する状況である。

弥生・古墳時代は社会基盤が稻作に移行し、生活圏が湧水帯に移動したため、集落は未発見である。わずかに平野東部の低位段丘上にある安川野武士 A 遺跡で弥生土器が採集されている。

東大寺領莊園 奈良時代になると 8 世紀中頃に東大寺領莊園が成立し、平野東部を中心に扇央部まで遺跡の分布域が拡大する。莊園本拠に近い久泉遺跡、秋元窪田島遺跡、徳万頼成遺跡、扇央部には小杉遺跡、千代遺跡、高道向島遺跡、宮村遺跡などが展開し、いずれの遺跡も地理学上でいう“マッド” (mud) 上に存在する。マッドは微高地・自然堤防上に発達した黒色有機質土の堆積域であり、河川氾濫の影響の少ない比較的安定した地形といえる。

般若野莊 中世になると東大寺領莊園の範囲を踏襲して徳大寺領般若野莊が成立 (12 世紀中頃か) し、扇央部には油田条 (村) が文献にみえる。般若野莊では領家方の支配領域と目される位置に東保遺跡 (東保高池遺跡)、東保般若堂遺跡があり、周辺に秋元窪田島遺跡、久泉遺跡などがある。

芹谷野段丘 庄川の右岸には台地がひろがり、河川作用によって形成された河成 (河岸) 段丘が存在している。それらは低位段丘、中位段丘、高位段丘として分類することができる。庄川町庄から宮森までには低位段丘が存在しており、隆起扇状



Fig.1 研波平野の地形分類図 (神島利夫 1982)

地堆積物が形成されている。高位段丘にあたる芹谷野段丘（福岡段丘）は、旧扇状地の右扇の一部が残存し段丘となったものである。南は安川付近から北は人門町串田付近まで約10kmに広がり、福岡の嚴照寺周辺では海拔80mを測る。芹谷野段丘上は、近世に庄川から芹谷野用水が引かれ、集落が展開した。

厳照寺遺跡 段丘縁辺部から丘陵裾にかけて繩文期の遺跡が多く、厳照寺遺跡、高沢島Ⅰ遺跡、高沢島Ⅱ遺跡、宮森新北島Ⅰ遺跡、上和田遺跡などが存在する。厳照寺遺跡は梅楨野窯跡場整備事業に先立ち昭和50・51年に富山県によって調査が実施されている。堅穴住居跡11棟、埋甕1箇所、穴などが検出され、中期前葉の典型的な弧状集落であることが判明した。出土土器群は、「厳照寺Ⅰ式・Ⅱ式・Ⅲ式」として中期前葉の地域的な編年を確立した。

弥生時代は増山城跡で土器片が発見されており、古墳時代は高沢島Ⅲ遺跡で遺物包含層中から十師器を数点検出している。

梅楨野窯群 奈良時代になると東大寺領莊園に近接することから、須恵器の大生産地となる。段丘・丘陵一帯にある須恵器窯を総じて梅楨野窯跡群と呼び、南北約2.0kmの範囲に窯が点在し、南の福山支群・北の増山支群に分けられる。増山支群の宮森窯と福山支群の安川天塙窯が最も古く8世紀第2四半期から中葉に位置付けられ、8世紀第3四半期から第4四半期にかけて増山支群の増山亀田窯、増山田子地窯、増山妙覚寺坂窯が操業を始め、同時期には福山支群で福山窯、福山小堤窯、福山大堤窯が操業している。9世紀前半に入ると、小丸山1号窯・2号窯が操業され、9世紀後半から10世紀にかけて正権寺後島窯、増山外貝喰山窯、増山笠山窯、東笠鐘野窯が操業をし、以後梅楨野窯跡群では須恵器生産が衰退する。

庄東山地 芹谷野段丘の東、和田川の両岸には中位段丘が形成されており、和田川流域段丘帯をなしている。和田川は、牛岳の北西側山中に源を発し、庄東山地と芹谷野段丘の間を大きく蛇行し、池原付近で坪野川が合流する。流路延長23.5km、庄川の支流である。昭和43年、和田川総合開発事業により和田川ダムが竣工し、和田川は堰き止められて増山湖ができる。

和田川の右岸は、一般に庄東山地（音川山地）と呼称される範囲に含むことができ、富山県を東西に分断する射水丘陵帶の一枝群を成している。この山地は起伏量が少ない丘陵性小起伏山地であり、地質的には青井谷シルト質泥岩層の範囲に含まれる。南に位置する山地は標高200m余りを最高点として100m余りの小起伏山地で構成されている。この山地の西北に位置する天狗山（標高192m）の北斜面、県民公園頼成の森の緩斜面丘陵は、南側山地からのかつての扇状地性堆積層で構成されている。表層地質としては、砂岩を主体とする下部と無層理青灰色泥岩を主体とする上部から成っている。

増山城跡 和田川右岸の丘陵上には、越中三大山城のひとつに数えられる増山城跡がある。南北朝時代の二宮円阿軍忠状に「和田城」という城名がみえ、亀山城に比定する見方がある。室町時代から放生津城を本拠とする神保氏の支城となり、天正4年（1576）に上杉謙信に攻略され落城し、天正9年（1581）に織田方に焼き払われた。天正11年（1583）以降、越中統一を果した佐々成政の西の拠点となり、のちに前田方の手に渡り、城の守将となった中川光重が退老もしくは没した慶長年間まで存続したとされる。また、左岸には城下にあたる増山遺跡（増山城下町遺跡）が広がっている。

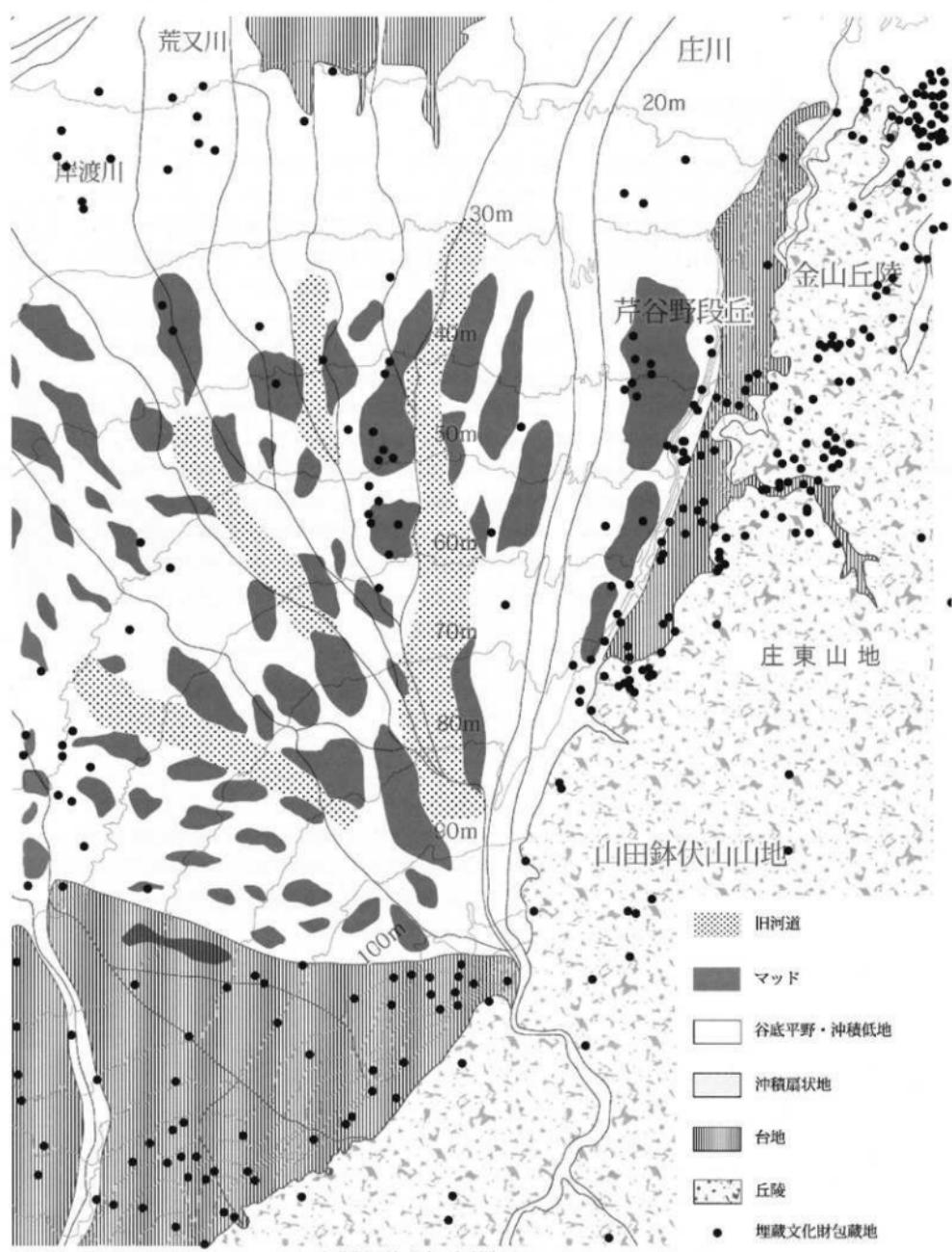


Fig.2 埋蔵文化財包藏地と地形分類図 (Scale=1 / 75,000)

2 調査に至る経緯

沿革 遺跡地図は、埋蔵文化財の保護・周知化を目的として、これまで作成されてきた。砺波市内の遺跡は、1974年発行の『全国遺跡地図 富山県』ではわずか34遺跡しか確認されていないが、1993年に富山県埋蔵文化財センター発行の『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』では112遺跡に急増している。昭和40年代からの高度経済成長に伴う開発増加、そして全国的な埋蔵文化財保護の気運高揚に起因する。その後『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』を基に加除修正を行っており、現在まで159遺跡を確認している。インターネットを核とする情報化社会への移行に伴い、富山県では平成16年度に「富山県GISサイト」(<http://wwwgis.pref.toyama.jp>)を開設し、最新の埋蔵文化財包蔵地図を広く県民へ周知すべく環境を整えた。

これまで旧砺波市では、旧市内全域を対象とした遺跡詳細分布調査が行われておらず、土木工事による偶発的な発見や市民からの届出、国道敷設等の大規模事業に伴う分布調査等により埋蔵文化財包蔵地の把握に努めてきた。このようにして設定された範囲は決して精度の高いものとは言えず、開発照会がある度に事業用地を踏査してきた。開発行為等の事前協議を進める上で精度の高い遺跡地図は必要不可欠であり、埋蔵文化財の保護・活用の観点からも遺跡地図の充実は急務である。また遺跡の分布状況は、考古学研究の基礎資料である。以上の事由から、遺跡詳細分布調査を実施する運びとなった。

Tab.1 遺跡数の推移

遺跡数		発行機関	発行年	図名
30	24	文化財保護委員会	1965	『全国遺跡地図(富山県)』
35	29	富山県教育委員会	1972	『富山県遺跡地図』
34	29	文化庁文化財保護部	1974	『全国遺跡地図(富山県)』
112	98	富山県埋蔵文化財センター	1993	『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』

旧庄川町の分布調査 旧庄川町では国庫補助を受け、合併前の平成14～16年度の3カ年で町内遺跡詳細分布調査を実施している¹⁾(現地調査2年、報告書1年)。町内を4地域に分割し、開発が予想される平野部に重点を置き調査が行われ、13遺跡の新規発見と2遺跡の台帳内容変更がなされた。採集遺物は463点を数え、約半数が庄川左岸の段丘上に分布することを把握している。

著名な金屋ポンポン野遺跡付近で縄文時代前期後葉・蛇ヶ森II式期の玦状耳飾(蛇紋岩製)を1点採集している。

1) 庄川町教育委員会 2004『富山県庄川町埋蔵文化財分布調査報告』

3 分布調査の計画

旧庄川町域を除く市内全域(96.33km²)を対象として、現地踏査を7カ年計画で実施する予定である(右表参照)。旧砺波市には、計17地区あり、踏査可能面積を考慮し各年度2～3地区ごとに調査を実施することにした。調査地区的設定は、開発行為が多く、埋蔵文化財包蔵地が希薄な地区を先行し、旧砺波市域の南西から北西部、中央部を縦断し庄川を越えて東部、段丘上・山間部という計画を策定した。

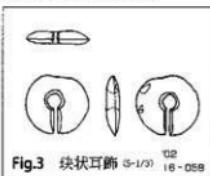


Fig.3 積状耳飾 (3-1/3) 16-058

Tab.2 分布調査の年次計画

調査年度	年次	調査地区	面積 (km ²)
平成 16 年度 (2004)	1 年次	鷺栖、東野尻、五鹿屋	14.43
平成 17 年度 (2005)	2 年次	出町、若林	9.26
平成 18 年度 (2006)	3 年次	林、高波	10.88
平成 19 年度 (2007)	4 年次	庄下、油田、南般若	11.08
平成 20 年度 (2008)	5 年次	糠瀬、太田、中野	13.22
平成 21 年度 (2009)	6 年次	般若、東般若	13.53
平成 22 年度 (2010)	7 年次	柏原野、梅櫻山	23.91
			96.33

4 分布調査の方法

踏査の方法 考古学的調査として、地表面の踏査を行い遺物探集に努め、遺構・遺物の広がりや分布状況を把握する手がかりとした。砺波市の平野部は大部分が庄川扇状地によって形成され、大小河川の氾濫が現在の地形状況を生んでおり、古代以前の遺跡立地に大きく反映するという特性がある。遺跡分布と地形状況は表裏一体の関係にあるといつても過言ではない。しかし、旧砺波市では昭和 30 年代後半から県内に先駆けて大規模な圃場整備が行われており、本年度調査区もすでに整備完工されている。かつての景観は失われ、本来の地形的微起伏を確認することはできない。同時に多くの遺跡も保存されることなく破壊された可能性が高い。

そこで、近年の地形改変とこれまでの踏査経験から、遺物の表面探集自体が困難と予想されるため、「なるべく多くの目で多くの遺物を採集すること」と調査の迅速化を目的として、富山大学考古学研究室の院生・学生の協力を得て、下の模式図のように踏査経路をとることにした。扇状地上の圃場整備後の水田は、大型機械導入のため 1 区画 30 a (短辺 30 ~ 40 m × 長辺 100m) の規格を持ち、水廻り効率から短辺が磁北 (流路方向) もしくは南東→北西に設定されている。1 班 5 名の体制で 1 区画の踏査にあたり、横並びに短辺方向に沿って歩くことを基本とした。水田畦畔には積年の耕作の結果、遺物が集在する可能性が高いことから、各調査員はできる限り畦畔を踏査経路に組み入れることに努めた。

遺物の扱い 採集遺物は番号を振り、洗浄・注記・接合・実測作業を行った。注記表現は、「砺波市分布調査 7 年次 (Tonamishi-Bunputyosa 7)」から、「TB - 7」とした。現地踏査では、携帯が簡便なゼンリン住宅地図 2000 (株式会社ゼンリン北陸) にその場でプロットし、踏査後に砺波市都市計画図 (1/2500) に写した。遺物は、班ごとに番号を振り、全体の踏査完了後、すべての遺物に通し番号を付した。大半の遺物が細片であるため、実測可能な個体を選別して図化している。

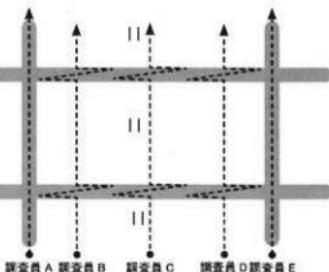


Fig.4 踏査経路模式図

包 藏 地 の 認 定 埋蔵文化財包蔵地の認定には、考古学的調査成果に限らず歴史地理学的・自然地理学的資料等の諸要素を考慮する必要がある。

平成 10 年 6 月に報告された「埋蔵文化財の把握から開発事業の発掘調査に至るまでの取り扱いについて」の中で法律上の保護対象となる「周知の埋蔵文化財包蔵地」は試掘・確認調査その他の発掘調査等の成果に基づき高い精度で把握・決定されることが必要であるとされており、その方法として、遺物の散布状況や地形の観察、地形・地質の形成過程を踏まえ、各時代の生活・生業に適した立地の想定、地形図・空中写真・地籍図・絵図等の資料等の総合的な活用が挙げられている。

実際に岐阜県大垣市教育委員会では、平成元年から平成 8 年度までに実施された分布調査において、踏査を主とする考古学的調査だけでなく、「時代ごとの地形復元図を作成する自然地理学的調査、絵図や地籍図（字綫図）から地表面下の痕跡を推定する歴史地理学的調査、そして低地での発掘ではまず最初に出会う掘潰れ等の輪中景観を復元する人文地理学的調査」といった地理学的手法を援用し、遺跡推定の検討材料としている¹。市域の大半が扇状地であり、「沖積地での踏査の困難さ」を指摘される点など、当市と非常に素地は似ている。大垣市教育委員会の分布調査手法は理想形とも言うべき取り組み方であるが、諸般の事情から当市で同じ手法を採用することは難しい。少しでも理想に近づけるため、当市では以下の手法を探り、埋没遺跡の範囲決定の手がかりとした。

- 1) 考古学的調査（踏査）
- 2) 歴史地理学的調査（旧字界・字名図作成）
- 3) 自然地理学的調査（従前図判読、地形分類調査）

考古学的調査の方法は、先述のとおりである。旧字名・字界図は、主に砺波郷土資料館蔵の字綫図や『砺波市史 資料編 5 集落』²から字名・字界を抽出し、旧地形図（昭和 30 年代砺波市作図）・現況地形図（平成 5 年砺波市作図）に情報を入力、必要に応じ識者から聞き取り調査を行った。

また、自然地理学的調査では、土地改良区に保管されている圃場整備前の従前図を収集し、失われた地形状況の復元を試みた。現況での地形確認が難しいため、旧地形を把握するには従前図を活用することが有効である。圃場整備前の空中写真から旧地形図・等高線図を作成することは技術的に可能であるが、費用的問題から断念した。従前図は、公園を基に作られているものや現地測量が行われているものなど精度にはばつきはあるが、基本的に縮尺が 1/500 もしくは 1/1000 であるため、空中写真よりはるかに現況図面との整合が容易である。ただし、圃場整備が行われた全地区に従前図が作成・保管されていない難点もある。

地形分類調査は、『土地分類基本調査 城端』（富山県 1981）をはじめとする地形分類図・表層地質図に拠っている。また、マッドと呼ばれる黒土層について、外山秀一氏の論文「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」³を参考としている。

- 1) 岐阜県大垣市教育委員会文化部 1997 「大垣市沿駅詳細分布調査報告書・解説編」
- 2) 砧波市史編纂委員会 1996 「砺波市史 資料編 5 集落」
- 3) 外山秀一 1997 「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」『砺波歴史研究』第 13 号 砧波市立砺波歴史研究所

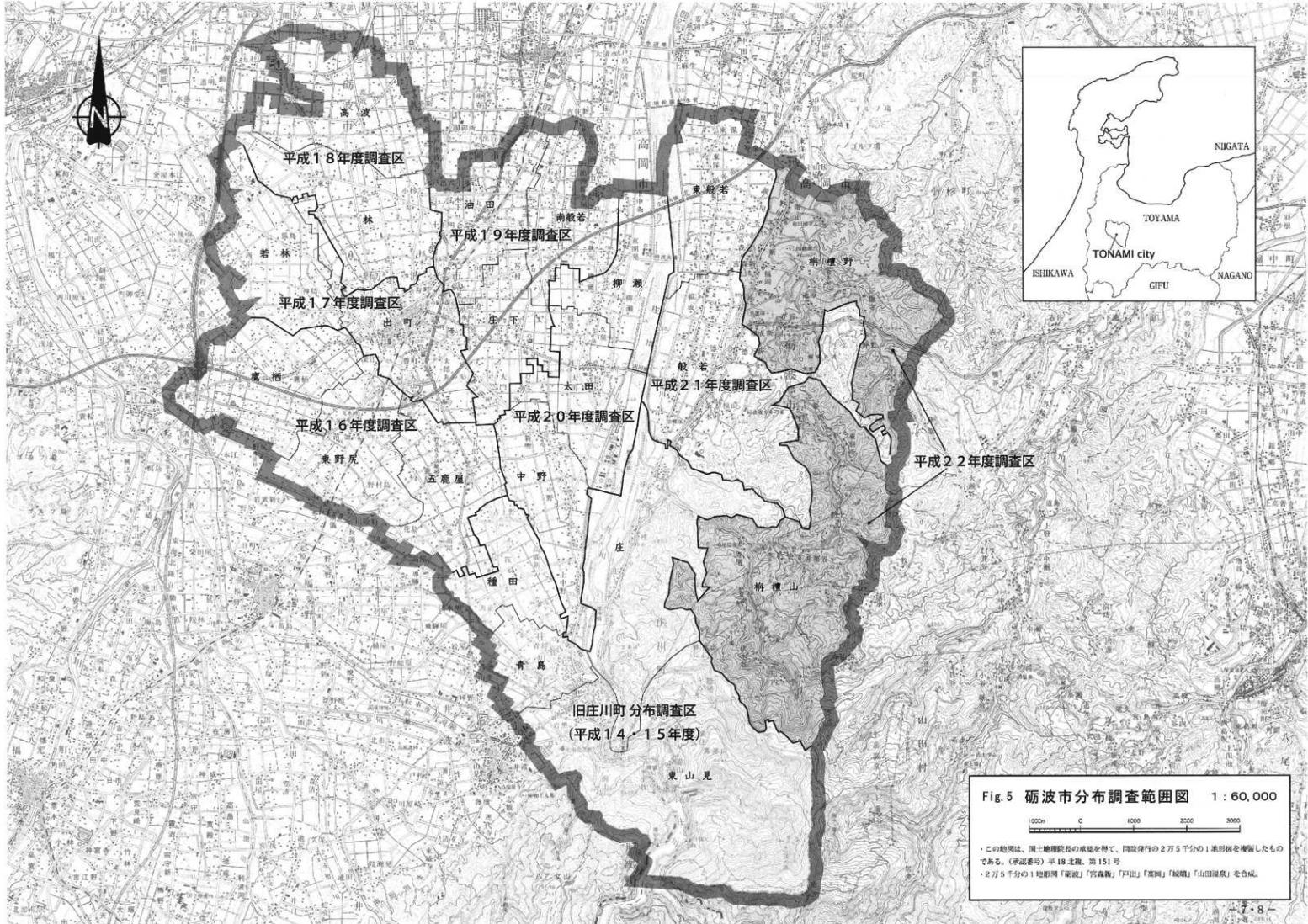


Fig. 5 砺波市分布調査範囲図 1 : 60,000

この地図は、国土地理院の地図を基に、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号) 平18北緯 第151号
 2万5千分の1地形図「河森町」「戸出」「高岡」「城崎」「山田温泉」を合成。

第2章 調査の成果

1 平成22年度調査区の概要

梅 檜 野 梅檜野地区は、福岡・二島新・福岡芹谷野・中条新・芹谷野新・宮森新・宮新・増山・増山新・上和田・上和田新・池山新・正権寺・坪野・市谷・池原・芹谷・芹谷本・頼成新から成る。平野部とは芹谷野段丘で隔離し、和田川の中位段丘と東には庄東山地が控える。当地区は市内で遺跡の密度がもっとも高い地域で、口石器から中世まで多様性に富む。口石器時代では後期の池原遺跡や芹谷遺跡が知られ、立野ヶ原型ナイフ形石器が採集されている。縄文時代の遺跡は多く、前期の増山遺跡から中期の嚴照寺遺跡など著名な遺跡が点在する。嚴照寺遺跡は芹谷野段丘線辺に位置する中期前葉の集落跡で、発掘により竪穴建物が10棟検出された。古代では梅檜野窓跡群中の増山支群（窓数14）があり、8世紀中葉から10世紀頃まで操業を続け、平野部の東大寺領莊園周辺の村々に須恵器を供給していた。生産遺跡では金クソ山遺跡のように製鉄遺跡もあり、高密度に分布する射水丘陵との関連も指摘されている。先行する時期には芹谷の千光寺がある。この寺は砺波地方でもっとも古い寺院で、開基は天宝3年（703）と伝わる。寺宝には白鳳仏とされる銅造觀世音菩薩立像があり、平野部の開発に先んじて芹谷一帯で遺跡が形成されたことを示唆する。池原の荊波神社は延喜式内社で、大伴家持の歌「荆波の里に宿借り春雨に隠り障むと妹に告げつや」（万葉集巻18・4138）が残る。中世において当地区は般若野莊にあたり、砺波郡・射水郡・婦負郡の三郡の境界が増山城跡の周辺にあった。増山城跡は14世紀に和田城として歴史上に登場し、麓では幾たびかの合戦が起こった。永正3年（1506）には越中を制した一向一揆と、神保慶宗・長尾景虎の連合軍が芹谷で激突し、能景が討死を遂げている。長尾景虎・長尾景虎の塚が周辺に残る。その後、上杉謙信に都合3度も城を攻められたあと織田方・佐々の方の手に落ち、最後には前田利家の重臣・中川光重が城代となり近世初頭に施城を迎えた。市谷の牛嶽神社周辺は増山城の出城だったとの言い伝えがあり、殿城・下郎屋敷島という地名が残る。

梅 檜 山 梅檜山地区は、川内・伏木谷・五谷・寺尾・井栗谷・柄上・浅谷・東別所から成る。梅檜野の南に位置し、鉢伏山以北の山地帯であり、和田川と谷内川により形成された開析谷が含まれる。場所柄、開発行為も少ないので発見される遺跡数も少ない。縄文時代では中尾遺跡出土の御物石器が市の指定文化財となっている。嚴照寺藏のこの石器は後晩期に製作されたと考えられ、石材は片麻岩または粘板岩で全体を敲打で整形し、研磨により仕上げている。橋本正氏の分類では、扁平頭式で第Ⅱ期（八日市新保式）に属す。同じ装飾系の石器では東別所駒ヶ城遺跡の石刀がある。完形品のこの石器は、柄頭が丸く、刃部と背を作り分け、切先は尖らない。石刀は内反りが多いが東別所の石刀はほぼ直線形である。孫子ワバラ遺跡では後期中葉の土器とともに打製石斧、磨製石斧、叩き石、石錘のほか、バナナ形石器が見つかっている。いずれの縄文遺跡も畑の開墾などで偶然見つかったものに過ぎない。時期は後晩期と推測されるが、梅檜野の遺跡動態から類推すると少なくとも前中期の遺跡があつて然るべきである。古代の散布地としては、鉢伏山北遺跡がある。史料では川内・伏木谷は慶長年間に見られ、周囲に中世石造物も散在するので中世遺跡が存在する可能性が高い。

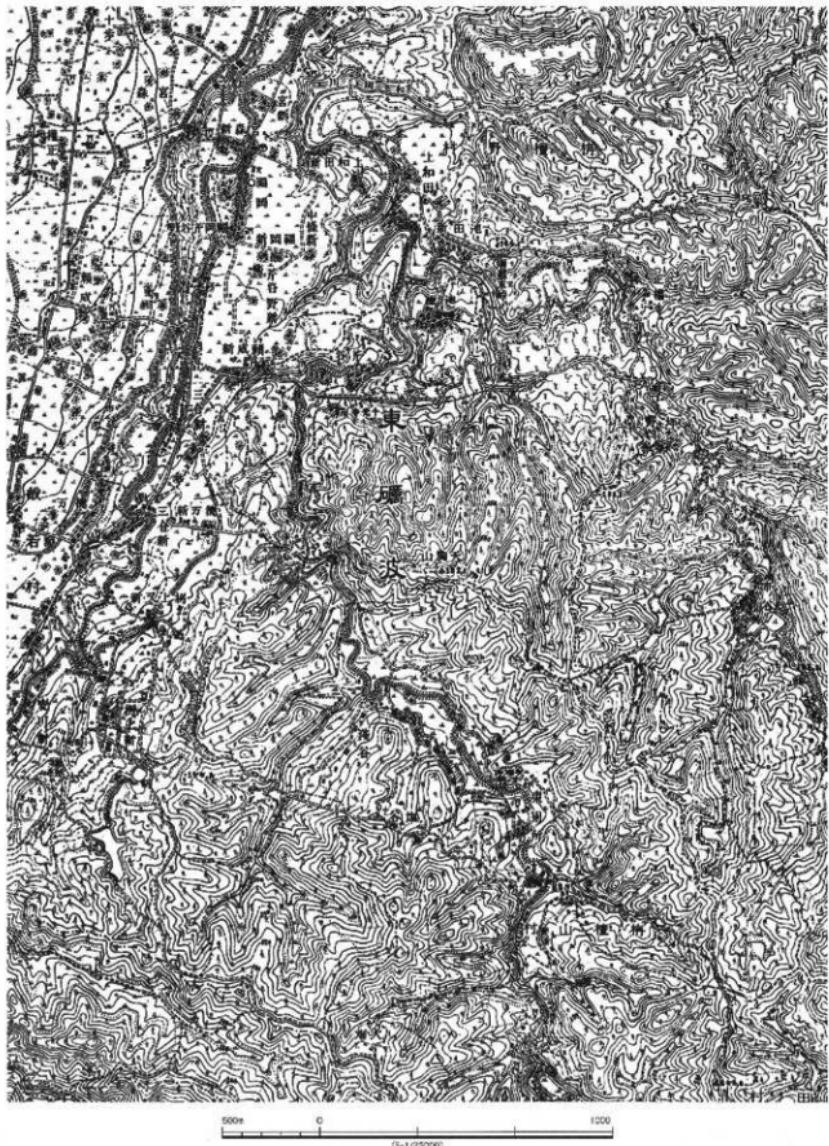


Fig.6 調査区周辺の旧版地図

この地図は、國土地理院長の承認を得て、同院発行の2万分の1旧版地図を複製したものである。(承認番号)平18北復、第151号

2 採集遺物

遺物構成 採集遺物の時期別点数は、縄文 38 点、

古代 25 点、中世 8 点、近世 69 点、近代・

時期不明点 41 点、合計 181 点である。

種類は、縄文土器、石器、須恵器、上師器、

珠洲、陶磁器、鉄製品等で構成される。遺

物割合は、縄文 21.0%、古代 13.8%、中

世 4.4%、近世 38.1%、近代 22.7% となる。

分布状況

梅檀野地区・梅檀山地区は、踏査前から

縄文期以降の遺跡が濃密に分布することが

わかっており、ある程度の遺物採集が期待

されたが、遺物数は少なかった。しかし、

縄文期の遺物は 38 点と過去の踏査で最多

を数えた。これは洪水の影響のない段丘上

や丘陵部を生活の舞台としていた証左であろう。また、古代遺物も多く採集された。これは調査対象地一帯が梅檀野窓跡群に位置しており、須恵器の大生産地であったことと古代に開山の千光寺や延喜式内社である前波神社の存在と無関係ではないと思われる。

遺物解説

時期別に遺物に触れたい。まずは須恵器が 5 点。11 は甕の胴部片で内面に同心円文當て具痕が明瞭に残る。外面に自然釉がかかる。14 は増山龜田窓跡で採集された横瓶で、外面に同心円状の搔き目を施す。断面形状から閉塞円板貼付技法で製作されたことがわかる。18 は甕もしくは広口瓶の口縁部で端部を返し、頸部外面には波状文を施す。19 は甕の胴部片で内面には同心円文當て具痕、外面には搔き目が残る。39 は甕の胴部片である。肉厚なため、かなり大型の甕だと思われる。外面に格子目叩き、内面に同心円文當て具痕が残る。66・67 はともに甕の胴部片で、外面に搔き目、内面に同心円文當て具痕が残る。103 は杯蓋の口縁部で、端部をわずかに垂下する。端部の特徴から、8 世紀後半の年代を与える。23 は甕の胴部片だが外面に粗い搔き目を施す。次に土師器を 3 点。114・115 は中世土師器皿であり、143 は長胴釜の底部と思われ、胎土の様子から古代に属すると思われる。珠洲は 2 点。99 は甕の口縁部である。外面に斜行の打圧痕、内面に円錐押圧痕がある。吉岡康暢氏による編年の中 V 期に相当すると考えられる。111 は胴部片である。4・15・20・27・93 は越中瀬戸である。5・21・100・113 は肥前系陶磁器である。144～156 までの石器類は古井節雄氏より寄贈を受けたものである。144～147 は打製石斧、148～151 は磨製石斧である。152 は用途不明、153 は擦石で上下端にそれぞれ敲打痕が残る。154・155 は石皿である。154 は両面とも使用しており、断面の厚さが 1cm になるまで使い込まれている。使用面は平滑で、製粉のためのメンテナンスは施されていない。156 は石鋸もしくは石冠と称される、いわゆる装飾系石器である。全長 29.2cm。御物石器と分布が似ており、越中・飛驒・美濃の山間部からの出土が多い石器である。

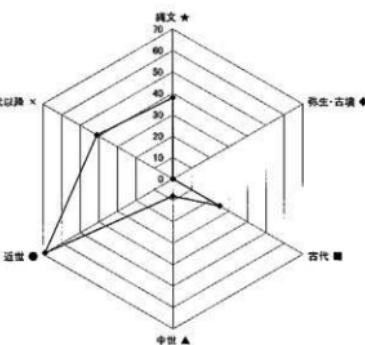


Fig.7 採集遺物の時期別点数

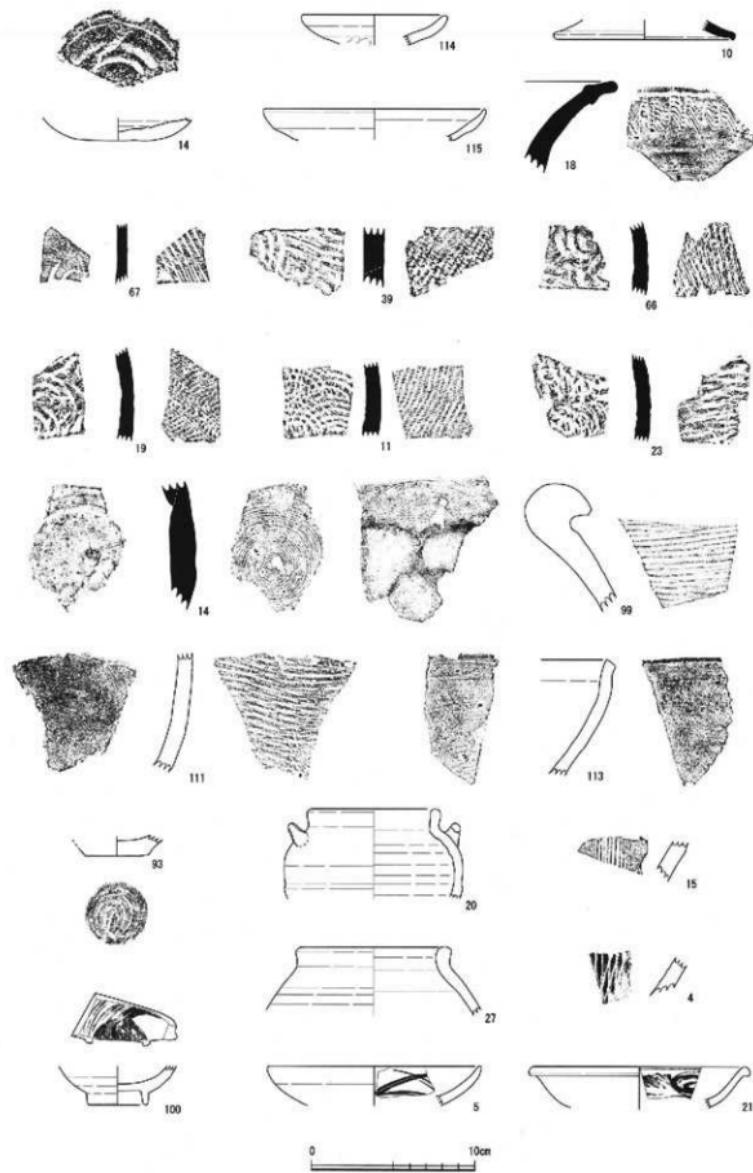


Fig.8 遺物実測図(1) S=1:3

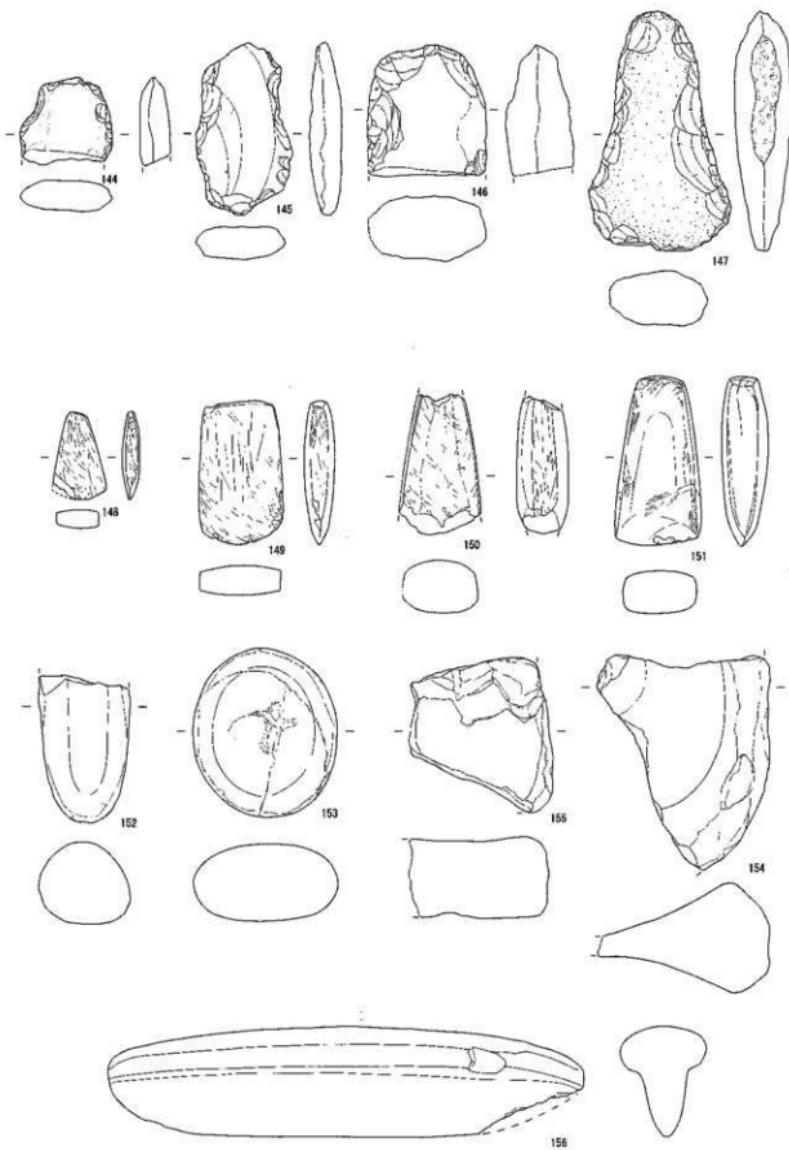


Fig.9 遺物実測図 (2) S = 1 : 3

Tab.3 採集遺物明細表

遺物番号	地区	遺物情報	器種	採集日	備考
4	宮新	越中瀬戸	擂鉢	20101116	—
5	増山	肥前	皿	20101116	絵付あり
11	増山	須恵器	甕	20101116	—
14	増山	須恵器	横腹	20101116	—
15	増山	越中瀬戸	擂鉢	20101116	—
18	増山	須恵器	甕	20101116	—
19	増山	須恵器	甕	20101116	—
20	増山	越中瀬戸	短頸壺	20101116	—
21	増山	陶胎染付	皿	20101116	絵付あり
23	増山	須恵器	甕	20101117	—
27	増山	越中瀬戸	短頸壺	20101117	—
39	宮森新	須恵器	甕	20101117	—
66	正権寺	須恵器	甕	20101124	—
67	正権寺	須恵器	甕	20101124	—
93	五谷	越中瀬戸	皿	20101202	—
99	芹谷	珠洲	甕	20101206	—
100	芹谷	肥前	碗	20101206	絵付あり
103	芹谷	須恵器	杯蓋	20101206	—
111	芹谷	珠洲	甕	19940319	—
113	芹谷	肥前	鉢	19940319	—
114	芹谷	土師器	皿	19940319	—
115	芹谷	土師器	皿	19940319	—
143	孫子	土師器	甕	—	古井節雄氏より寄贈
144	孫子	石器	打製石斧	—	—
145	孫子	石器	打製石斧	—	—
146	孫子	石器	打製石斧	—	—
147	孫子	石器	打製石斧	—	—
148	孫子	石器	磨製石斧	—	—
149	孫子	石器	磨製石斧	—	—
150	孫子	石器	磨製石斧	—	—
151	孫子	石器	磨製石斧	—	—
152	孫子	石器	石錐？	—	—
153	孫子	石器	撲石	—	—
154	孫子	石器	石皿	—	—
155	孫子	石器	石皿？	—	—
156	孫子	石器	石鋸	—	—

Tab.4 中世石造物一覧

中世石造物一覧									
番号	市役所名	名称	所在地	形態・状態	高さ(高さ)	幅(幅)	石質	備考	時期(市史)
- 1	伏木谷共同墓地塔	柏櫻山・伏木谷・牛頭神社境内	柏櫻山・伏木谷・牛頭神社境内	相輪のみ残欠	-	-	凝灰岩	確認できず。	室町期
1 2	千光寺塔	柏櫻野・片谷・千光寺	柏櫻野・片谷・千光寺	相輪、笠の残欠	28	32	凝灰岩	千光寺墓地内にある。	室町期
玉輪塔 *は撮影できなかったもの									
番号	市役所名	名称	所在地	個体数				備考	時期(市史)
2 10	五谷共同墓地塔	柏櫻山・五谷・共同墓地	空腹輪0(1)、火輪0(2)、水輪4(6)、地輪0(2)						
3 11	五谷神社境内塔	柏櫻山・五谷・五谷神社	空腹輪2(1)、火輪2(2)						
4 12	伏木谷共同墓地塔	柏櫻山・伏木谷・牛頭神社境内	水輪1(1)						
5 13	伏木谷共同墓地塔	柏櫻山・伏木谷・高島子	水輪2(2)						
6 14	中尾共同墓地塔	柏櫻山・中尾・共同墓地	空腹輪5(6)、火輪5(5)、水輪7(7)、地輪2(3)						
- 15	杉村惣作宅塔	柏櫻山・谷内・杉村惣作宅	火輪1(0)					確認できず。	
7 16	大原茂政宅塔	柏櫻山・東別所・大原茂政宅	空腹輪1(2)、水輪1(1)						
8 17	吉田庄太郎馬場塔	柏櫻野・吉田庄太郎馬場	空腹輪1(1)						
1 18	千光寺墓地塔	柏櫻野・片谷・千光寺墓地	空腹輪8(12)、火輪2(4)、水輪7(7)、地輪1(6)						
9 19	初山斐エ宅墓地塔	柏櫻野・正徳寺・初山斐	空腹輪3(3)、火輪4(4)、水輪2(2)					墓を移築しており、市史とは所在地が異なる。	
10 20	斎成新共同墓地塔	柏櫻野・斎成新・共同墓地	空腹輪4(6)、火輪3(1)、水輪4(1)						
11 21	長尾屋景翠塔	柏櫻野・横川又・六宅	水輪1(1)						
12 22	慶照寺墓地塔	柏櫻野・福岡・慶照寺墓地	火輪1(1)						
13 23	宮新共同墓地塔	柏櫻野・宮新・共同墓地	空腹輪1(1)、火輪1(0)						
24	経塚跡塔	柏櫻野・宮森新・経塚跡	空腹輪3(0)					確認できず。	
14 25	増山共同墓地塔	柏櫻野・増山・共同墓地	空腹輪1(0)、火輪1(0)、水輪1(1)						
板石塔婆(板碑) *は撮影できなかったもの									
番号	市役所名	名称	所在地	高さ	幅	右質	形態	印刻・備考	時期(市史)
- 90	原野塔1	柏櫻山・原野・觀音堂	45	24	凝灰岩	扁平な方	鍛鉄のパン	元原野分教の裏側にあった。確認できず。	室町期
- 91	原野塔2	柏櫻山・原野・觀音堂	53	21	凝灰岩	扁平な方	鍛鉄のパン	元原野分教の裏側にあった。確認できず。	室町期
- 92	谷内塔	柏櫻山・谷内・杉村惣作47 宅束頭	34	川石	自然石	月輪にパン	萬研形り	月輪の下に蓮華座がある。南北朝谷内より発見と伝える。確認できず。	南北朝
7 93	大原茂政宅墓地塔	柏櫻山・東別所・大原茂28 政宅墓地	23	凝灰岩	扁平な方	鍛鉄の五輪塔	五輪塔の火輪部で折れ、上部のみ	南北朝	
6 94	中尾共同墓地塔	柏櫻山・中尾・共同墓地	66	42	凝灰岩	鍛石	月輪にパン	萬研形り。月輪の下に蓮華座がある。南北朝前田太郎兵衛宅の墓地にあった。	南北朝
1 95	千光寺塔	柏櫻野・片谷・千光寺墓地	55	20	砂岩質	方錐形			室町期
1 96	増山共同墓地塔	柏櫻野・増山・共同墓地	75	28	凝灰岩	方錐形			室町期
石仏									
番号	市役所名	尊名	所在地	姿勢	高さ	幅	石質	備考	時期(市史)
15 103	地蔵	柏櫻野・正徳寺・正徳寺	平原 の瀬北		50	38	凝灰岩	-	南北朝-室町
その他									
番号	市役所名	名称	所在地	個体数				備考	時期(市史)
6 125	中尾共同墓地塔	柏櫻山・中尾・共同墓地	屢塔の一部(等部)					-	
新規確認石造遺物									
番号	市役所名	名称	所在地	個体数				備考	
16 なし	宮本文夫宅墓地塔	柏櫻山・東別所・宮本文	空腹輪2 人坐天基					-	
17 なし	東別所神明社境内塔	柏櫻山・東別所・神明社	水輪1					-	
18 なし	孫子共同墓地塔	柏櫻山・孫子・共同墓地	空腹輪1					-	
2 なし	五谷共同墓地塔	柏櫻山・五谷・共同墓地	前の一部? 4					-	
3 なし	八谷神社境内塔	柏櫻山・五谷・八谷神社	塔の一部? 3						
14 なし	増山共同墓地塔	柏櫻野・増山・共同墓地	塔の一部? 1						
6 なし	中尾共同墓地塔	柏櫻山・中尾・共同墓地	相輪の一部、分釦1						
新規確認石造遺物									
番号	市役所名	名称	所在地	個体数				備考	
16 なし	宮本文夫宅墓地塔	柏櫻山・東別所・宮本文	空腹輪2 人坐天基					-	
17 なし	孫子共同墓地塔	柏櫻山・孫子・共同墓地	空腹輪1					-	
18 なし	五谷共同墓地塔	柏櫻山・五谷・共同墓地	前の一部? 4					-	
3 なし	八谷神社境内塔	柏櫻山・五谷・八谷神社	塔の一部? 3						
14 なし	増山共同墓地塔	柏櫻野・増山・共同墓地	塔の一部? 1						
6 なし	中尾共同墓地塔	柏櫻山・中尾・共同墓地	相輪の一部、分釦1						

Tab.5 採集遺物一覧(1)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	図	遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	図
001	増山	磁器	近世	●	2010/11/16		051	池原	陶胎染付	近世	●	2010/11/19	
002	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16		052	賴成新	磁器	近代	×	2010/11/22	
003	宮新	陶器	近世	●	2010/11/16		053	芹谷	磁器	近世	●	2010/11/22	
004	宮新	陶器	近世	●	2010/11/16	○	054	芹谷	磁器	近世	●	2010/11/22	
005	増山	磁器	近世	●	2010/11/16	○	055	芹谷	磁器	近世	●	2010/11/22	
006	増山	陶器	近代	×	2010/11/16		056	芹谷	磁器	近世	●	2010/11/22	
007	増山	磁器	近世	●	2010/11/16		057	芹谷	磁器	近世	●	2010/11/22	
008	増山	磁器	近世	●	2010/11/16		058	芹谷	磁器	近世	●	2010/11/22	
009	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16		059	芹谷	磁器	近代	×	2010/11/22	
010	増山	磁器	近世	●	2010/11/16		060	芹谷	磁器	近代	×	2010/11/22	
011	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16	○	061	芹谷	磁器	近代	×	2010/11/22	
012	増山	土師器	古代	■	2010/11/16		062	芹谷	陶器	近世	●	2010/11/22	
013	増山	土師器	近世	●	2010/11/16		063	芹谷	土師器	古代	■	2010/11/22	
014	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16	○	064	正椎寺	磁器	近代	×	2010/11/23	
015	増山	陶器	近世	●	2010/11/16	○	065	東別所	磁器	近代	×	2010/11/24	
016	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16		066	正椎寺	須恵器	古代	■	2010/11/24	○
017	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16		067	正椎寺	須恵器	古代	■	2010/11/24	○
018	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16	○	068	正椎寺	須恵器	古代	■	2010/11/24	
019	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16	○	069	正椎寺	須恵器	古代	■	2010/11/24	
020	増山	陶器	近世	●	2010/11/16	○	070	正椎寺	須恵器	古代	■	2010/11/24	
021	増山	陶胎染付	近世	●	2010/11/16	○	071	正椎寺	須恵器	古代	■	2010/11/24	
022	増山	須恵器	古代	■	2010/11/16		072	正椎寺	磁器	近代	×	2010/11/24	
023	増山	須恵器	古代	■	2010/11/17	○	073	坪野	磁器	近代	×	2010/11/24	
024	増山	磁器	近世	●	2010/11/17		074	東別所新	磁器	近世	●	2010/11/24	
025	増山	磁器	近世	●	2010/11/17		075	東別所	磁器	近代	×	2010/11/24	
026	増山	磁器	近世	●	2010/11/17		076	東別所新	磁器	近世	●	2010/11/25	
027	増山	陶器	近世	●	2010/11/17	○	077	東別所新	磁器	近世	●	2010/11/25	
028	増山	陶器	近世	●	2010/11/17		078	柄上	磁器	近代	×	2010/11/27	
029	増山	陶器	近世	●	2010/11/17		079	井栗谷	磁器	近代	×	2010/11/27	
030	増山	陶器	近世	●	2010/11/17		080	井栗谷	磁器	近世	●	2010/11/27	
031	増山	陶器	近世	●	2010/11/17		081	井栗谷	磁器	近代	×	2010/11/27	
032	増山	陶器	近世	●	2010/11/17		082	井栗谷	磁器	近代	×	2010/11/27	
033	増山	磁器	近代	×	2010/11/17		083	井栗谷	磁器	近代	×	2010/11/27	
034	増山	陶器	近世	●	2010/11/17		084	井栗谷新	磁器	近代	×	2010/11/27	
035	増山	磁器	近世	●	2010/11/17		085	井栗谷新	磁器	近代	×	2010/11/27	
036	増山	磁器	近世	●	2010/11/17		086	井栗谷	磁器	近世	●	2010/11/30	
037	増山	磁器	近世	●	2010/11/17		087	井栗谷	陶器	近世	●	2010/11/30	
038	宮新	磁器	近世	●	2010/11/17		088	伏木谷	陶器	近世	●	2010/11/30	
039	宮森新	須恵器	古代	■	2010/11/17	○	089	井栗谷	磁器	近世	●	2010/12/1	
040	宮新	磁器	近代	×	2010/11/17		090	井栗谷	磁器	近世	●	2010/12/1	
041	宮森新	陶器	中世	▲	2010/11/17		091	井栗谷	陶器	近世	●	2010/12/1	
042	福岡	陶器	近世	●	2010/11/17		092	井栗谷	陶器	近世	●	2010/12/1	
043	福岡	磁器	近世	●	2010/11/17		093	五谷	土師器	近世	●	2010/12/2	○
044	上和田	磁器	近代	×	2010/11/19		094	川内	陶器	近世	●	2010/12/6	
045	上和田	磁器	近世	●	2010/11/19		095	東別所	磁器	近世	●	2010/12/6	
046	上和田	陶器	近世	●	2010/11/19		096	芹谷	須恵器	古代	■	2010/12/6	
047	上和田	磁器	近世	●	2010/11/19		097	芹谷	陶器	近世	●	2010/12/6	
048	賴成新	陶器	近世	●	2010/11/19		098	芹谷	磁器	近世	●	2010/12/6	
049	賴成新	陶器	近世	●	2010/11/19		099	芹谷	珠洲	中世	▲	2010/12/6	○
050	賴成新	磁器	近世	●	2010/11/19		100	芹谷	陶器	近世	●	2010/12/6	○

Tab.6 採集遺物一覧(2)

遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	図	遺物番号	字名	遺物情報	時期	マーク	採集日	図
101	片谷	陶器	近世	●	2010/12/6		151	孫子	石器	縄文	★	—	○
102	芹谷	陶器	近世	●	2010/12/6		152	孫子	石器	縄文	★	—	○
103	芹谷	須恵器	古代	■	2010/12/6	○	153	孫子	石器	縄文	★	—	○
104	芹谷	土師器	近世	●	2010/12/6		154	孫子	石器	縄文	★	—	○
105	正権寺	土師器	古代	■	2010/12/6		155	孫子	石器	縄文	★	—	○
106	正権寺	土師器	古代	■	2010/12/6		156	孫子	石器	縄文	★	—	○
107	芹谷	陶器	近世	●	1993/12/1		157	孫子	石	縄文	★	—	
108	芹谷	磁器	近世	●	1993/12/1		158	孫子	石	縄文	★	—	
109	芹谷	石器	不明	×	1993/12/1		159	孫子	石	縄文	★	—	
110	片谷	須恵器	古代	■	1994/3/19		160	孫子	石	縄文	★	—	
111	片谷	珠洲	中世	▲	1994/3/19	○	161	孫子	石	縄文	★	—	
112	芹谷	珠洲	中世	▲	1994/3/19		162	孫子	石	縄文	★	—	
113	芹谷	珠洲	中世	▲	1994/3/19	○	163	孫子	石	縄文	★	—	
114	片谷	土師器	中世	▲	1994/3/19	○	164	孫子	石	縄文	★	—	
115	芹谷	土師器	中世	▲	1994/3/19	○	165	孫子	石	縄文	★	—	
116	芹谷	土師器	中世	▲	1994/3/19		166	孫子	石	縄文	★	—	
117	芹谷	陶器	近世	●	1994/3/19		167	孫子	石	縄文	★	—	
118	芹谷	陶器	近世	●	1994/3/19		168	孫子	石	縄文	★	—	
119	片谷	磁器	近世	●	1994/3/19		169	孫子	石	縄文	★	—	
120	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/19		170	孫子	石	縄文	★	—	
121	芹谷	十師器	不明	×	1994/3/19		171	孫子	石	縄文	★	—	
122	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/19		172	孫子	石	縄文	★	—	
123	片谷	土師器	不明	×	1994/3/19		173	孫子	石	縄文	★	—	
124	芹谷	鉄製品	不明	×	1994/3/19		174	孫子	石	縄文	★	—	
125	芹谷	須恵器	古代	■	1994/3/30		175	孫子	石	縄文	★	—	
126	芹谷	磁器	●		1994/3/30		176	孫子	石	縄文	★	—	
127	芹谷	陶器	近世	●	1994/3/30		177	孫子	石	縄文	★	—	
128	片谷	陶器	不明	×	1994/3/30		178	孫子	石	縄文	★	—	
129	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/30		179	孫子	石	縄文	★	—	
130	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/30		180	孫子	石	縄文	★	—	
131	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/30		181	孫子	石	縄文	★	—	
132	芹谷	陶器	不明	×	1994/3/30								
133	片谷	土師器	不明	×	1994/3/30								
134	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/30								
135	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/30								
136	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/30								
137	片谷	土師器	不明	×	1994/3/30								
138	片谷	土師器	不明	×	1994/3/30								
139	芹谷	鉄製品	不明	×	1994/3/30								
140	芹谷	陶器	近世	●	1994/3/30								
141	芹谷	陶器	不明	×	1994/3/30								
142	芹谷	土師器	不明	×	1994/3/30								
143	孫子	土師器	不明	×	—		○						
144	孫子	石器	縄文	★	—		○						
145	孫子	石器	縄文	★	—		○						
146	孫子	石器	縄文	★	—		○						
147	孫子	石器	縄文	★	—		○						
148	孫子	石器	縄文	★	—		○						
149	孫子	石器	縄文	★	—		○						
150	孫子	石器	縄文	★	—		○						

3 遺跡各説

今回の分布調査によって、新規発見・内容変更・範囲変更のあった遺跡について取り上げる。

遺跡名	増山西遺跡〔範囲・内容変更〕	遺跡番号	208029	地図	NJ536133
-----	----------------	------	--------	----	----------

所在地	砺波市増山	現況	水田・宅地
-----	-------	----	-------

種別	古代散布地、中世散布地、近世散布地	時代	古代、中世、近世
----	-------------------	----	----------

包蔵地認定	現在の増山集落のほぼ中央に位置する遺跡である。これまで集落西側に包蔵地を設定していた。集落東側（増山妙覺寺坂窯跡）で古代に属する遺物（須恵器）を採集した。この遺物は須恵器窯の関連遺物である可能性もあるが、生焼けや焼け膨れ等の痕跡がないことから窯とは切り離して扱うこととした。以上のことから包蔵地を東側に拡大し、時代（中世・近世）に古代を追加するもの。
-------	---

遺跡名	東別所貉が城遺跡〔新規〕	遺跡番号	一	地図	NJ536133
-----	--------------	------	---	----	----------

所在地	砺波市東別所	現況	水田
-----	--------	----	----

種別	縄文散布地	時代	縄文
----	-------	----	----

包蔵地認定	明治27年に東別所の貉が城から石刀が出土しており、現在は増山の個人が所蔵している。この石刀は詳細な出土地点が確定していないが、東別所の山間の田地を開墾した際に出土したと伝わり、その出土場所は石刀収納箱に「東別所字モジナガジョ出土」と記載がある。モジナガジョは「貉が城」と考えられる。中世の山城が近在したと伝わる場所であるが、山城の位置は判然としない。踏査では縄文期の遺物等は採集できなかったが、貉が城地内での開田地帯は当該地しか存在しないことから石刀出土地である可能性が高いと判断されるので包蔵地として認定する。
-------	--

遺跡名	五谷遺跡〔新規〕	遺跡番号	一	地図	NJ536133
-----	----------	------	---	----	----------

所在地	砺波市五谷	現況	水田・畑地・宅地
-----	-------	----	----------

種別	中世散布地	時代	中世
----	-------	----	----

包蔵地認定	五谷はかつて「御谷」と呼ばれていたと伝わる。南西方向にはかつて中世山城があったとされる鉢伏山があり、五谷はその中腹の山間集落である。梅檀山地内には中世石造物が集落ごとに点在しており、地区全体では相当数にのぼる。その中で五谷の石造物が安置されている墓地は若干マウンド状地形となっていること、そして五輪塔の残骸が多くみられることから墓地周辺を包蔵地として認定する。
-------	--

第3章 まとめ

調査所見 今年度調査区は、梅檀野地区と梅檀山地区といった段丘および丘陵地帯であり、踏査条件が平野部は大きく異なった。しかし調査区は遺跡の密度が市内でもっとも濃密な地域であり、多くの遺物採集が期待された。結果として遺物数は過去の調査で最少だったが、これは圃場整備の影響とト草や低灌木などが繁茂する山間地という条件が重なったためと考えられる。市史を紐解けば、山間地の遺跡の多くは田地や畠地の開墾時に偶発的に発見されたものが多く見受けられるので、調査区は目視による踏査に不向きな地形であったといえるかもしれない。梅檀野は比較的包蔵地が多いが、これは昭和50年代に圃場整備に先駆けて富山県埋蔵文化財センターが広範囲にわたって試掘確認調査を行ったことや、市史編纂時に砺波郷上資料館や砺波土蔵の会などが精力的に踏査を行った成果である。梅檀野窓跡群中の増山支群を構成する須恵器窓跡が多数発見されたり、鉄や炭などの生産遺跡も見つかっている。古代の梅檀野は周囲に荒波神社や千光寺が存在する宗教的空間でありながら、用材調達の便などで発達したのであろうが須恵器などの供給地的性格を有することも明らかになってきた。

一方、梅檀山は古くから知られた中尾遺跡や東別所駒が城遺跡などの縄文遺跡は著名だが、包蔵地は閑散としている。今回の踏査では遺物の採集こそ少なかったものの、縄文と中世に新知見があった。縄文では孫子ワバラ遺跡（孫子上原遺跡）から採集された石器類の中に、石鋸（石刃）があることがわかった。市史では同遺跡からバナナ形石器が大正13年に発見されていると記載があるが、石鋸の発見は市内で初めてである。縄文時代後晩期の遺物と考えられるが、飛越文化圏の中でどのように位置付けられるのか検討の余地がある。

また、中世石造物が広く分布している状況が掴めた。しかも中尾共同墓地、五谷共同墓地などでは相当数の五輪塔片が集積していた。これらは周辺から持ち寄られたものであろうが、梅檀山全体に中世的色彩を看取した。伝承に目を向けると、梅谷神社の紳士上人お手植えの杉、伏木谷には神保良衡が井波三河守と謀議して長尾為景殺害を企てたという説話、東別所には室町末期の天文14年に徳人・守実通が般若野莊へ下向の際、従者大原次郎左衛門・大原茂左衛門の二人が移住したという言い伝えなどがある。中世の伝承が残り、多くの石造物が存在するのである。中世期の遺跡がまだ多く眠っている可能性は高い。また、市谷には牛嶽神社周辺に「殿城」「下郎屋敷島」といった地名が残り、増山城の出城があったとの伝承もある。包蔵地にすべきか検討したが遺物や石造物もなく、認定材料に乏しいことから見送ることにした。

今回の踏査では包蔵地の縮小は行わなかった。上述のように偶発的な発見や分布調査より確度の高い試掘調査によって設定された遺跡が多いためであることを断つておく。

Tab.7 調査遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	摘要
1 208029	増山西遺跡	砺波市増山	古代・中世・近世	範囲・内容変更
2 —	東別所駒が城遺跡	砺波市東別所	縄文	新規
3 —	五谷遺跡	砺波市五谷	中世	新規

* 新規2遺跡、範囲・内容変更1遺跡

参考文献

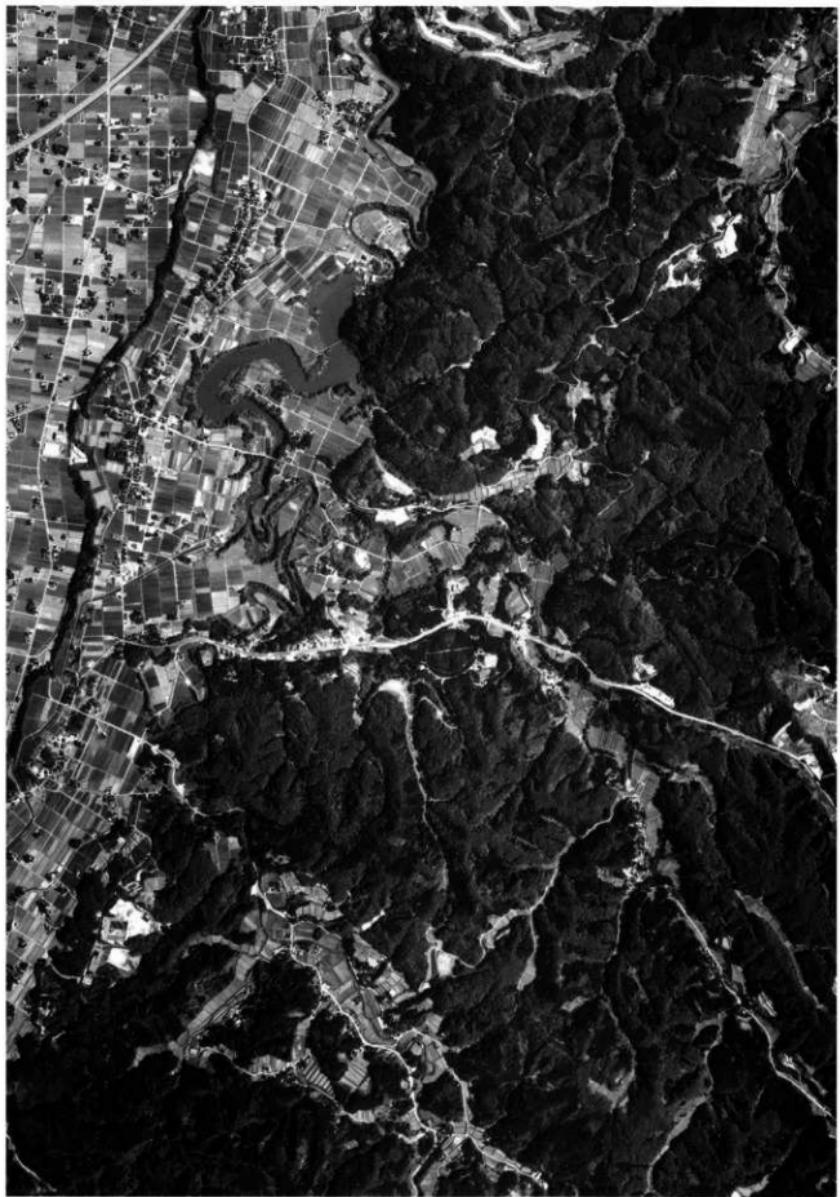
- 有體正一郎他編 2001 「歴史地理調査ハンドブック」 古今書院
- 犬伏和之・安西徹郎編 2001 「土壤学概論」 朝倉書店
- 大垣市教育委員会文化部 1997 「大垣市遺跡詳細分布調査報告書 解説編」
- 神島利夫 1982 「地形地質」「地下水利用等基礎調査報告書」 富山県
- 鈴木隆介 1998 「建設技術者のための地形図読図入門 第2巻 低地」 古今書院
- 高橋 学 2003 「平野の環境考古学」 古今書院
- 竹村利人 1978 「砺波平野南部地域の段丘地形」「地理学評論」 vol.51-9
- 地学団体研究会編 1994 「新版地学教育講座 9 地表環境の地学—地形と土壤—」 東海大学出版会
- 砺波市・砺波市土地改良協会 1985 「砺波市は場整備完成記念誌」
- 砺波市史編纂委員会 1990 「砺波市史資料編 1 考古・古代・中世」
1996 「砺波市史資料編 5 集落」
- 砺波市老人クラブ連合会 1993 「砺波市の地名 一郷上の字・由来調査事業報告書」
- 富山县農地林務部は場整備課 1981 「土地分類基本調査 城端」
1970 「土地分類基本調査 石動」
- 外山秀一 1997 「プラント・オバールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」
〔砺波散村地域研究所研究紀要第13号〕 砧波市立砺波散村地域研究所
- 久間一剛他編 1993 「土壤の辞典」 朝倉書店
- 深井三郎 1976 「富山の地形と地質」 富山県自然保護課

PL.1 空中写真（1）



この写真は、国土地理院長の承認を得て、国際撮影の空中写真（昭和24年）を複製したものである。（承認番号）平18北緯、第151号

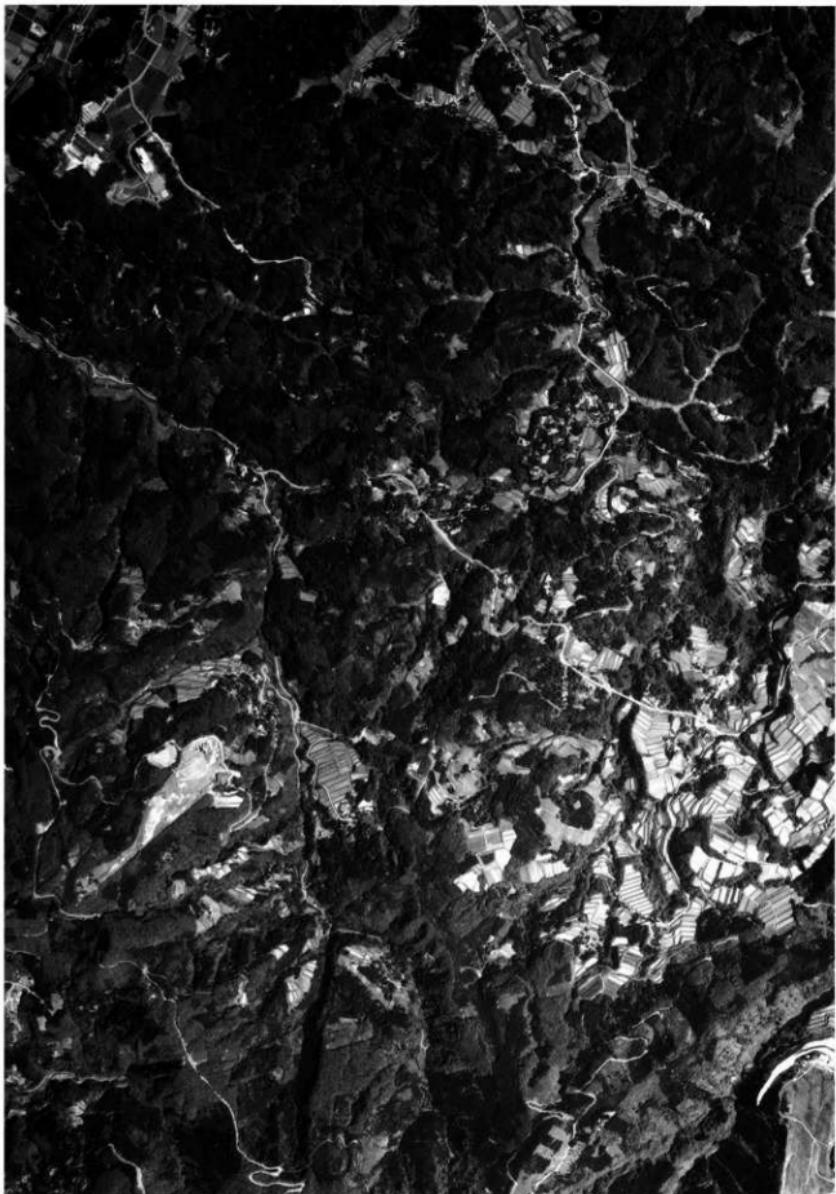
PL.2 空中写真（2）



標榜野地区

この写真是、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真（平成14年）を複製したものである。（承認番号）平18北復、第151号

PL.3 空中写真 (3)



木曾山地区

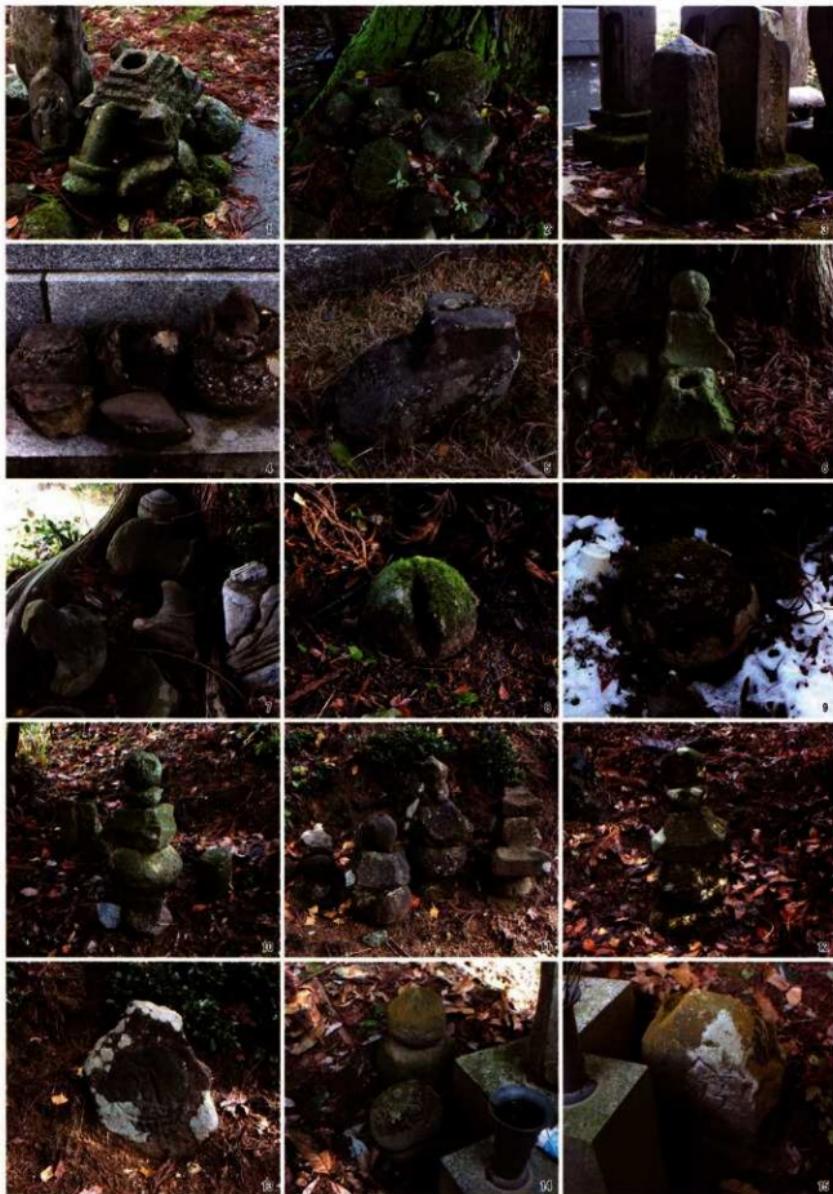
この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真（平成14年）を複製したものである。（承認番号）平18北淮、第151号

PL.4 調査写真（1）



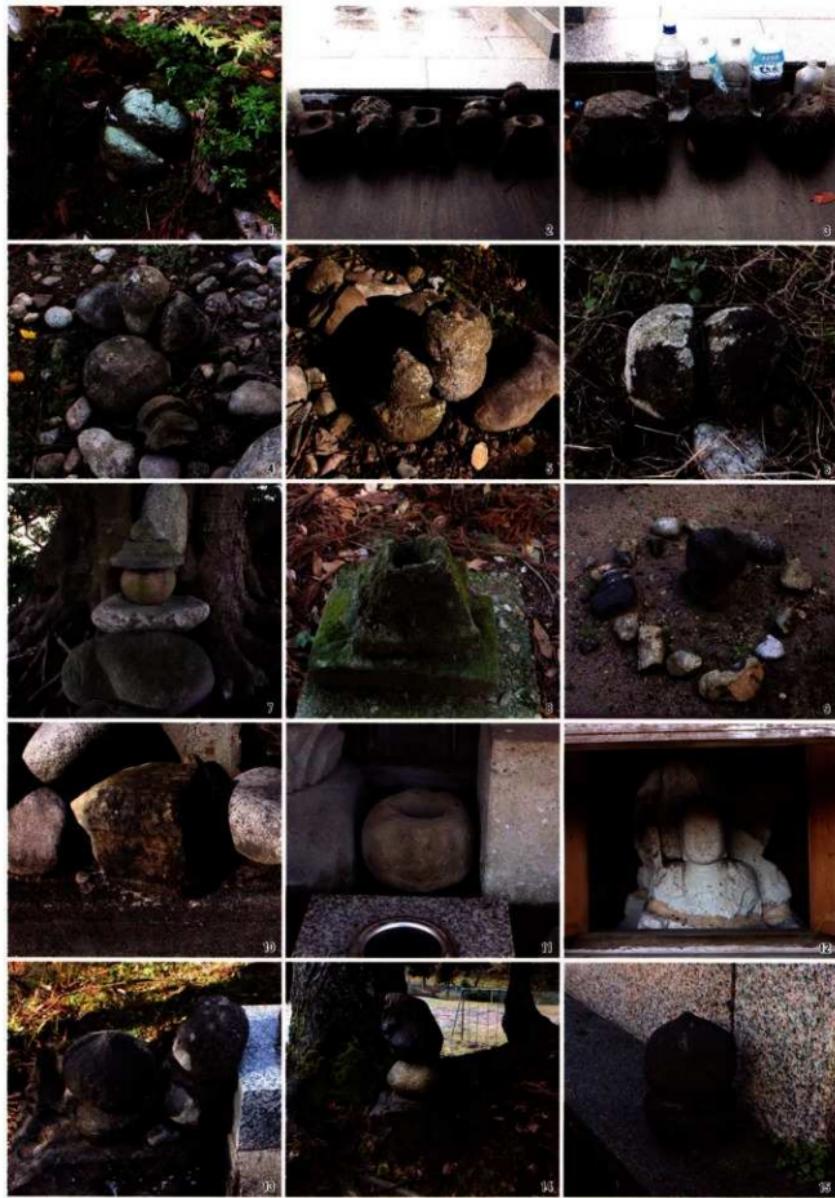
1. 増山西道路 2. 東野所蔵が城遺跡 3. 五谷道路

PL.5 調査写真 (2)



1. 千光寺共同墓地塔・宝鏡印塔 (1)	2. 同・五輪塔 (1)	3. 同・板石塔婆 (1)
4. 五谷共同墓地塔・五輪塔 (2)	5. 五谷共同墓地塔・塔の一部か? (2)	6. 五谷社内塔・五輪塔 (3)
7. 同・塔の一部か? (3)	8. 伏木谷共同墓地塔1・五輪塔 (4)	9. 伏木谷共同墓地塔2・五輪塔 (5)
10. 中尾共同墓地塔・五輪塔 (6)	11. 同・五輪塔 (6)	12. 同・五輪塔・五輪塔 (6)
13. 同・板碑 (6)	12. 大原宅塔・五輪塔 (7)	13. 同・板碑 (7)

PL.6 調査写真 (3)

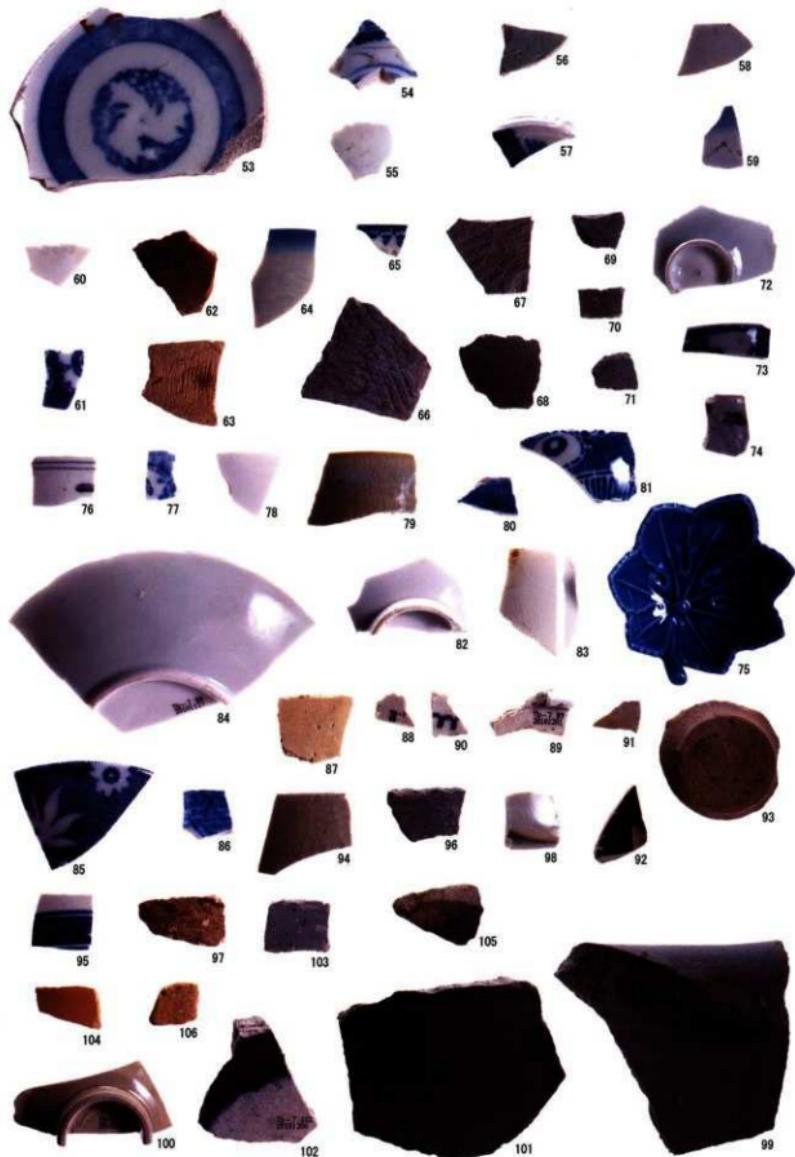


1. 青山宅墓地塔・五輪塔 (8)
2. 初山宅墓地塔・五輪塔 (9)
3. 同・五輪塔 (9)
4. 鶴成新共同墓地塔・五輪塔 (10)
5. 同・五輪塔 (10)
6. 同・五輪塔 (10)
7. 長尾能景塚塔・五輪塔 (11)
8. 薩照寺墓地塔・五輪塔 (12)
9. 宮新共同墓地塔・五輪塔 (13)
10. 増山共同墓地塔・宝篋印塔 (14)
11. 同・五輪塔 (14)
12. 正梅寺の湯北・地藏 (15)
13. 宮本宅墓地塔・五輪塔 (16)
14. 東別所神明社境内塔・五輪塔 (17)
15. 孫子共同墓地塔・五輪塔 (18)

PL.7 遺物写真（1）



PL.8 遺物写真 (2)



PL.9 遺物写真 (3)



PL.10 遺物写真 (4)



148



149



150



153



152



151



154



155



156

報告書抄録

ふりがな	となみしいせきしおうさいぶんぶちょうさほうこくなな					
書名	砺波市遺跡詳細分布調査報告7					
副題	栴檀野・栴檀山					
編著者名	野原大輔(砺波市教育委員会生涯学習課)					
編集・発行機関	砺波市教育委員会					
所在地	〒932-0393 富山県砺波市庄川町吉島401番地 TEL0763-82-1904					
発行年月日	平成23年3月25日					
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村		北緯	東経	調査原因
しない いせき	上やまけんとなみしふくおか、ふたし よしん、ふくおかせりだんの、なかん じよしん。せりだんのしん、みやもり しん、みやしん。ますやす、ますぐま しん、かみわだ。かみわだしん。いせ だんしん。しょうごんに、つぼの、いち のたに、いけのはう、せりだに、せり だにほん、らんじょしん。こうち、ふ しきだに、ごのたに、てらお、いぐり だに、とちあげ、あきのたに、ひがしべつ しは	162086	—	36度39分5秒	137度2分52秒	市内遺跡詳細 分布調査事業
市内遺跡	富山県砺波市福岡、二島新、福岡芦谷 町、中条町、芦谷新、宮森新、宮新、 横山、増田新、上和田、上和田新、池 田新、中條寺、坪野、市谷、池原、芦谷、 片谷小、鶴城新、川内、伏木谷、五谷、 弓削、井森谷、板上、越谷、東谷所			調査面積	調査期間	
				—	2010.11.16 ～2010.12.10	
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
市内遺跡	—	—	—	—		
砺山西遺跡	古代散布地、中世散布地、近世散布地	古代・中世・近世	—	—		
東別所跡が城遺跡	誕文散布地	誕文	—	—		
五谷遺跡	中世散布地	中世	—	—		

DISTRIBUTION SURVEY REPORT OF THE TONAMI CITY Vol. 7

—SENDANNO・SENDANYAMA—

Copyright © Tonami city Board of Education
401 Aoshima Shogawamachi Tonami-City Toyama 932-0393, Japan

No parts of this publication may be reproduced or copied by any means
without prior permission of the copyright owner.

砺波市遺跡詳細分布調査報告 7

『報告編』 一橋檀野・栴檀山一

2011年3月25日発行

編集 砧波市教育委員会

〒932-0393 富山県砺波市庄川町青島401番地
TEL (0763) 82-1904 FAX (0763) 82-3521

発行 砧波市教育委員会

印刷 株式会社チューイツ

〒939-1308 富山県砺波市三郎丸45番地
TEL (0763) 32-2021

Printed in Japan

